

ファクトフルネス

FACTFULNESS

先生向けガイド

ファクトフルネス
『FACTFULNESS』の授業の進め方



イントロダクション

この冊子は、『ファクトフルネス』（ハンス・ロスリング、オーラ・ロスリング、アンナ・ロスリング・ロンランド著）の先生向けガイドです。授業で『ファクトフルネス』をどう使うのかに加えて、この本を用いた指導案を紹介します。

主に中学校と高校の社会科学系の先生を対象にしていますが、ほかの教科の先生や学校以外の場面でもご活用いただけます。

『ファクトフルネス』では、世界について勘違いをさせる人間の10の本能を紹介しています。また、これらの本能を抑えることで、誤った世界の見方を改め、事実に基づく世界の見方ができるようになると説明しています。

このガイドは前半・後半の2つのパートで構成されています。

- ・前半では、『ファクトフルネス』の導入部分に注目し、この本と、この本の核になる考え方を最初にどう紹介すれば良いかを提案しています。
- ・後半では、『ファクトフルネス』で紹介している本能の中から、「分断本能」を題材とし、具体的な指導案や授業で行う課題について説明しています。

分断本能を題材にした理由は、この本能が10の本能の中で最も基本的な本能だからです。また、分断本能はとんでもなく的外れな世界の見方につながるため、『ファクトフルネス』の中では「とんでもない勘違い」と表現されています。

ここで提案する授業の進め方は、『ファクトフルネス』にある分断本能以外の本能を教える際にも使えます。大まかな授業の構成は次の通りです。

授業準備

- ・関連する章を読んでおく。「この本能はわたしたちにどんな影響を与えるのか」「世界は本当はどんなものなのか」「本能を抑える方法」という見出しで、内容を要約しておく。
- ・その章で紹介されている事実をどう使うのか、この本以外にも授業に役立つような教材がないか考えておく（ギャップマインダー（Gapminder）財団のウェブサイトには多くの教材があります）。

導入

- ・授業の初めに、このガイドのページ6と7で提案しているイントロダクションの課題を終わらせます。（「ファクトフルネス」「生徒の知識を確認する」「目の錯覚と世界の錯覚」）
- ・イントロダクションの課題を行うのは一度だけで構いません。ただ、授業で複数の本能を取り上げる場合には、それぞれの本能に関連した質問をもう一度行ってもよいでしょう（後述する「どの質問がどの本能に関係しているか」を参照のこと）。

展開

- ・世界の現状を正しく見ることを助けるような、事実に基づく教材に取り組む時間を生徒に与えましょう。

まとめ

- ・最後に、課題についての振り返りをみんなで一緒に行います。何を学んだか、世界の見方がどう変わったかについて語り合しましょう。

どの質問がどの本能に関係しているか

分断本能	質問1、2
ネガティブ本能	質問3、4
直線本能	質問5、6
恐怖本能	質問7
過大視本能	質問8
パターン化本能	質問9
宿命本能	質問10
単純化本能	質問11
犯人探し本能	質問12
焦り本能	質問13

わたしたちは世界をどう見ているのか、 その理由とは？

『ファクトフルネス』の「イントロダクション」で著者たちは、本の主な内容を紹介しています。なぜ多くの人が間違っただけの世界の見方をしてしまうのか、事実とデータがどのように人々を癒してくれるのかについて、13問のチンパンジークイズをもとに語っています。

ここから数ページにわたって、あなた（先生）のためにファクトフルネスの内容をまとめます。その後に、『ファクトフルネス』を授業で紹介するための課題について説明します。

イントロダクションのまとめ

『ファクトフルネス』の主な考え方

『ファクトフルネス』の考え方は、健康的な食生活や定期的な運動のように、毎日の生活に取り入れてほしい。訓練を積み重ねれば、ドラマチックすぎる世界の見方をしなくなり、事実に基づく世界の見方ができるようになるはずだ。これらはファクトフルネスの著者たちの言葉（『ファクトフルネス』 p.24）であり、本の主張です。

- ・多くの人は、ドラマチックすぎる世界の見方をしています。すなわち、世界は実際よりも恐ろしく、暴力的で、残酷なものだと考えているのです。こういった世界の見方は気分が重くなる上に、そもそも間違っています。
- ・データを探したり、シンプルで効果的な思考法を使ったりといった訓練を積み重ねることで、ドラマチックすぎる世界の見方ではなく、事実に基づく世界の見方ができるようになります。判断力が上がり、何を恐れ、何に希望を持てばよいのかを見極められるようになり、取り越し苦労もしなくて済みます。

非常に多くの人が、ドラマチックすぎる世界の見方にとらわれています。このことは、ハンズ・ロスリングとギャップマインダー財団（ハンズ・ロスリング、アンナ・ロスリング・ロンランド、オーラ・ロスリングが2005年に設立）が明らかにしてきました。何年にもわたって、貧富、教育、保健、ジェンダーなどさまざまな分野のクイズを出題してきましたが、人々の正解率は惨憺たるものでした。「世界のことを何も知らないようだ」と著者たちはまとめています（『ファクトフルネス』 p.16）。

なぜ多くの人が、世界を間違っただけで見えてしまうのか？

世界は毎年少しずつよくなっているのに、多くの人がこれを理解しないのはなぜでしょうか？ わたしたちはなぜ事実を間違っただけで解釈して、誤った結論を導き出す傾向があるのでしょうか？ 『ファクトフルネス』によると、それはわたしたちの脳に原因があるようです。わたしたちが持つ本能は、狩猟採集民だった祖先にとっては役立つものでした。しかし現代人と

っては、結論を急いだり、存在しない危険に怯えるといった悪影響を及ぼしてしまいます。

10の本能のまとめ

ファクトフルネスでは、そのような10の本能について紹介しています。

1. 分断本能 何事も2つのグループに分けてしまう。分断本能は、世界が「金持ちグループ」と「貧乏グループ」に分かれていて、その間には大きな隔りがある、という勘違いを生んでしまう。しかし実際には、ほとんどの国がその中間にある。

2. ネガティブ本能 良いことよりも悪いことに注目してしまう。世界は実際は良くなっているのにもかかわらず、どんどん悪くなっていると勘違いしてしまう。

3. 直線本能 どんなグラフも直線を描くと思込んでしまう。直線本能のせいで、人々は何か大きな対策を打たなければ世界の人口がひたすら増え続けると勘違いしてしまう。実際には、世界の人口は大きく増えてはいるが、そのスピードはすでに緩やかになっており、今世紀末を迎える頃にはグラフは横ばいになる。

4. 恐怖本能 ドラマチックな危険に気を取られ、最大のリスクを伴う物事を見落としてしまう。恐怖本能のせいで、実際よりも世界は恐ろしいと勘違いしてしまう。

5. 過大視本能 特定の物事の大きさや割合を見失ってしまう。世界の進歩を過小評価する。

6. パターン化本能 物事を間違ったパターンに当てはめてしまう。パターン化は避けられないが、間違ったパターン化は実際は全く異なる人や国などをひとくくりにつなげる。

7. 宿命本能 国や人々の未来は先天的な要素によって決まると思い込み、社会や文化が常に変わり続けていることに気づかなくなってしまう。ゆっくりとした変化であっても、何も変わっていないと勘違いしてしまう。

8. 単純化本能 人々はシンプルな考え方に惹かれ、何事にも単純な説明や解決方法を求めてしまう。わたしたちは単純化本能のせいで、自分のものの見方に合わない情報を見落とし、世界について誤解してしまう。

9. 犯人捜し本能 悪いことがあると犯人を捜し、良いことがあるとヒーローを捜してしまう。この本能のせいでわたしたちの分析力は鈍り、世界を単純にとらえてしまい、他の原因を探ることができなくなってしまう。

10. 焦り本能 「いつやるか？ いまでしょ！」とすぐに行動したくなってしまう（その一方で人々は、長期的なリスクには鈍感なことが多い）。複雑な問題に直面すると、批判的に考える力を失ってしまう。

指導案

『ファクトフルネス』を授業で紹介しよう

この指導案は、3つの関連した課題で成り立っており、『ファクトフルネス』を生徒に紹介する際にお使いいただけます。

授業準備：『ファクトフルネス』のイントロダクションを読む

必要なもの：コンピュータまたはタブレット

授業の回数：1回

ファクトフルネス

本を紹介して、「ファクトフルネス」という言葉について話し合きましょう。

- 「ファクトフルネス」と黒板などに書きましょう。生徒はどんな反応をするでしょうか？何を連想するでしょうか？
- これは本の題名であり、データと情報を上手に用いて世界をより正しく理解するための考え方だと説明しましょう。この考え方は、本書の共著者のハンス・ロスリング、アンナ・ロスリング・ロンランド、オーラ・ロスリングが考案しました。

生徒の知識を確認する

著者のハンス・ロスリングが長年にわたり、世界中を飛び回って講演を行っていたことや、その講演の内容について生徒に説明しましょう。講演中にハンスは、聴衆が世界についてどのくらい知っているかを調べるため、いくつかの質問を出していました。

これらの世界についての質問に、次は生徒が答える番です。

- 『ファクトフルネス』(pp.9-13) のチンパンジークイズを生徒に回答してもらってください。このガイドの**配布資料1**を利用。
- 小さなグループをつくり、生徒がそれぞれの答えを比べ合い、話し合う時間を取ってください。
- 答え合わせをします。生徒は答えを見てどう思いましたか？生徒が最も驚いた答えはどれでしょうか？
- 間違った答えを選んだ生徒が多かった場合は、「間違ったのはあなたたちだけではないよ」と伝えるのもよいでしょう。過去に質問に答えたたくさんの人のうち、ほとんどが間違った答えを選んでいましたから。

目の錯覚と世界の錯覚

なぜ多くの人が世界について誤解しているのでしょうか。言い換えると、なぜ多くの人が間違っていて理解しているのでしょうか。クイズの後に語り合きましょう。

- a. 多くの人が間違っているのはどうしてだと思うか、生徒に聞いてみましょう。
- b. 『ファクトフルネス』のイントロダクションの主な内容を伝えましょう。ドラマチックすぎる世界の見方、事実に基づいた世界の見方、本能といった概念について説明しましょう。
- c. 「目の錯覚と世界の錯覚」(配布資料2)を試してみて、『ファクトフルネス』(pp.22-23)の内容を基に解説しましょう。
- d. これほど多くの人が世界を誤って見てしまうとどうして危険なのか、生徒が話し合う時間を取りましょう。グループごとに考えをまとめて発表してもらいます。事実に基づく世界の見方がなぜ重要なのでしょうか？(『ファクトフルネス』 pp.23-25)

配布資料 1

13問のチンパンジークイズに答えてみよう。

質問1 現在、低所得国に暮らす女子の何割が、初等教育を修了するでしょう？

- A 20%
- B 40%
- C 60%

質問2 世界で最も多くの人々が住んでいるのはどこでしょう？

- A 低所得国
- B 中所得国
- C 高所得国

質問3 世界の人口のうち、極度の貧困にある人の割合は、過去20年でどう変わったでしょう？

- A 約2倍になった
- B あまり変わっていない
- C 半分になった

質問4 世界の平均寿命は現在およそ何歳でしょう？

- A 50歳
- B 60歳
- C 70歳

質問5 15歳未満の子供は、現在世界に約20億人います。国連の予測によると、2100年に子供の数は約何人になるでしょう？

- A 40億人
- B 30億人
- C 20億人

質問6 国連の予測によると、2100年にはいまより人口が40億人増えるとされています。人口が増える最も大きな理由は何でしょう？

- A 子供（15歳未満）が増えるから
- B 大人（15歳から74歳）が増えるから
- C 後期高齢者（75歳以上）が増えるから

質問7 自然災害で毎年亡くなる人の数は、過去100年でどう変化したでしょう？

- A 2倍以上になった
- B あまり変わっていない
- C 半分以下になった

質問8 現在、世界には約70億人の人がいます。下の地図では、人の印がそれぞれ10億人を表しています。世界の人口分布を正しく表しているのは3つのうちどれでしょう？



質問9 世界中の1歳児の中で、なんらかの病気に対して予防接種を受けている子供はどのくらいいるでしょう？

- A 20%
- B 50%
- C 80%

質問10 世界中の30歳男性は、平均10年間の学校教育を受けています。同じ年の女性は何年間学校教育を受けているでしょう？

- A 9年
- B 6年
- C 3年

質問11 1996年には、トラとジャイアントパンダとクロサイはいずれも絶滅危惧種として指定されていました。この3つのうち、当時よりも絶滅の危機に瀕している動物はいくつでしょう？

- A 2つ
- B ひとつ
- C ゼロ

質問12 いくらかでも電気が使える人は、世界にどのくらいいるでしょう？

- A 20%
- B 50%
- C 80%

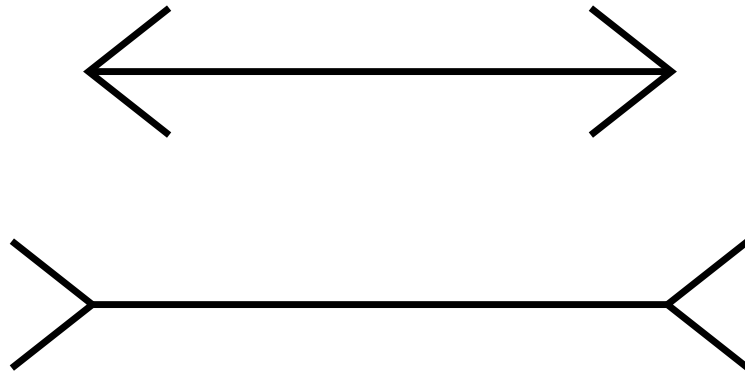
質問13 グローバルな気候の専門家は、これからの100年で、地球の平均気温はどのように考えているでしょう？

- A 暖くなる
- B 変わらない
- C 寒くなる

配布資料 2

目の錯覚と世界の錯覚

次の2つの横線のうち、長いのはどちらでしょうか？



分断本能

「世界は分断されている」という思い込み

『ファクトフルネス』の第1章では、世界の国々は「豊かな国」と「貧しい国」に分かれているという、多くの人が陥るとんでもない勘違いを紹介しています。第1章の内容を先生方に覚えてもらうために、以下に概要を説明します。概要の後には、『ファクトフルネス』とギャップマインダー財団のウェブサイトを起点に、分断本能を授業で取り上げる方法を提案します。

第1章の概要

分断本能はわたしたちにどのような影響を及ぼすか？

分断本能のせいでわたしたちは、物事を2つのグループに分けてしまいがちになります。世界は「貧しい国と豊かな国」または「途上国と先進国」に分かれていて、その間には埋まることのない大きな溝がある、といった勘違いを生んでしまうのです。

ギャップマインダー財団が、「世界の人口の何%が、低所得国に住んでいると思いますか？」と世界各国の人々に質問したところ、大半の人が「50%以上」と答えました。ところが、正解は9%なのです。

つまり、多くの人が「豊かな国」と「貧しい国」のあいだに大きな溝があり、大半の人は悲惨な生活を送っているか、豊かな暮らしを送っているかのどちらかだと、思い込んでいるのです。

本当の世界はこうなっている

世界が2つのグループに分断されていると考えるのは間違いです。分断はありません。ほとんどの国は、わたしたちが誰もいないと思っていた中間にいます。世界は1960年代以降に大きく変化しました。家族の世帯規模、乳幼児死亡率、電気が使える割合や教育の機会など、暮らしのほとんどが変わったのです。世界を2つのグループに分けるのではなく、所得に基づいて4つのグループに分けるほうが正しいのです。4つの所得レベルとは次の通りです。

- ・ **レベル1**：1日の稼ぎは2ドル未満。世界でおよそ10億人がここにいる。
- ・ **レベル2**：1日の稼ぎは2ドルから8ドル。世界でおよそ30億人がここにいる。
- ・ **レベル3**：1日の稼ぎは8ドルから32ドル。世界でおよそ20億人がここにいる。
- ・ **レベル4**：1日の稼ぎは32ドル超。世界でおよそ10億人がここにいる。

200年前には、世界の80%の人々はレベル1にいて、極度の貧困の中に暮らしていました。現在、極度の貧困にある人の割合は9%になりました。大部分は真ん中のレベル、つまりレベル2とレベル3に暮らしており、生きる上で最低限必要なものは足りています（住居、食料、水、電気、トイレ、学校教育、基本的な医療）。

本能を抑えるには

分断本能を抑えるには、大半の人がどこにいるかを探すことです。また、わたしたちが見ているのは「上からの景色」であることを思い出しましょう。レベル4にいる人は、レベル1とレベル2の暮らしにおける非常に大きな違いを見逃しがちです。

本能

世界は2つに分断されている。世界の国々は、「豊かな国」と「貧しい国」に分けることができる。



現実

2つのグループに分断されているのではなく、重なり合っている。ほとんどの国は中間にあり、世界の人口の75%は中所得の国に住んでいる。



本能を抑えるには

大半の人がどこにいるかを探そう。上からの景色に気をつけよう。

分断本能を使った授業

この指導案は当ガイドのページ3で説明した構成で成り立っています。導入からはじまり、展開部分では2つの課題を行い、最後のまとめでは皆で振り返ります。

授業準備：『ファクトフルネス』の第1章を読んでおく。gapminder.orgにアクセスして、ドル・ストリート（Dollar Street）を使ってみて慣れておく。このガイドの配布資料をプリントして、各グループに2部ずつ渡す。

必要なもの：コンピュータまたはタブレット

授業の回数：2～4回

導入：チンパンジークイズの質問1と質問2を復習しよう

すでに生徒が回答した、質問1と質問2を復習しましょう（このガイドのp.8）。生徒の答えと正解を確認します。

課題1：4つの所得レベル

イントロダクションをもう一度

多くの人が世界は2つに分断されていると信じていますが、これは間違いです。この思い込みを「分断本能」と呼びます（『ファクトフルネス』のp.50）。時間を取って、物事を2つのグループやカテゴリに分ける例を生徒にいくつか挙げてもらいましょう。『ファクトフルネス』のpp.46-49にある4つの所得レベルについて簡単に説明し、ドル・ストリートの仕組みも説明しましょう。ただし、各レベルの暮らしをしている人の数はまだ内緒にしてください。それができたら、課題に入ります。

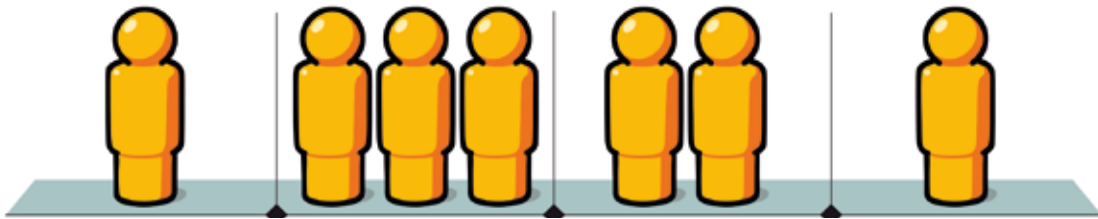
課題の手順

- 生徒をいくつかのグループに分け、各グループにドル・ストリートの用紙と7つの人型の記号を渡します（**配布資料3と4**）。ひとつの人型の記号は、約10億人を表していると説明しましょう。
- 生徒たちに、自分はレベル1～4のどこで暮らしていると思うか尋ね、ドル・ストリート上にペンで印を付けてもらいましょう。スウェーデンのほとんどの人はレベル4にいますが、スウェーデンの低所得者層（相対的貧困）の人たちは世界全体で見ると中所得者層、すなわちレベル3にいますと生徒たちに伝えます（訳注：これは日本にも当てはまります）。
- できれば、ギャップマインダーのウェブサイト（[gapminder.org/tools/#\\$state\\$marker\\$select@\\$geo=swe;;;&chart-type=mountain](https://gapminder.org/tools/#$state$marker$select@$geo=swe;;;&chart-type=mountain)）にある「所得の山」の図を生徒に見せましょう。これを使えば、スウェーデンの所得水準を世界と比べることができます（訳注：日本の所得水準はこちら：[gapminder.org/tools/#\\$state\\$marker\\$select@\\$geo=jpn;;;&chart-type=mountain](https://gapminder.org/tools/#$state$marker$select@$geo=jpn;;;&chart-type=mountain)）。

- d. 自分たちが4つのレベルのどこにいるかを生徒が理解したら、今度は世界の人々がどこに暮らしているかを考えてもらいましょう。約10億人はレベル1にいますが、残りの60億人はどこにいると思うか聞いてみましょう。レベル1のところに人型の記号をひとつ置き、残りの6個の人型の記号を他の3つのレベルに振り分けてもらい、生徒の考え方を見てみましょう。

締めくくり

- a. どのレベルに人型をいくつ置いたか、グループごとに発表してもらいます。
b. あなた（先生）が正しい位置に人型を置いて、世界の現実を生徒に伝えましょう。



- c. 時間があれば、ここ200年間の世界の進歩についてハンス・ロスリングが解説したYouTube動画を見てみましょう。この動画の中でハンスは、所得レベルについて話しています。
youtube.com/watch?v=jbkSRLYSojo

解説

ドル・ストリート

ドル・ストリートはアンナ・ロスリング・ロンランドが開発したもので、『ファクトフルネス』では、こう説明されています。「1本の長い通り沿いに世界中のすべての家が所得順に並んでいるとしよう。最も貧しい人たちは通りのいちばん左端に住み、最も豊かな人たちは右端に住んでいる。そのほかの人たちは？ もちろん、ここまで読んでくれたあなたならおわかりだと思うが、ほとんどの人はそのあいだのどこかに住んでいる。ドル・ストリートのお隣さんは、世界中にいる同じくらいの所得の人たちだ」(p.200)

お役立ち情報

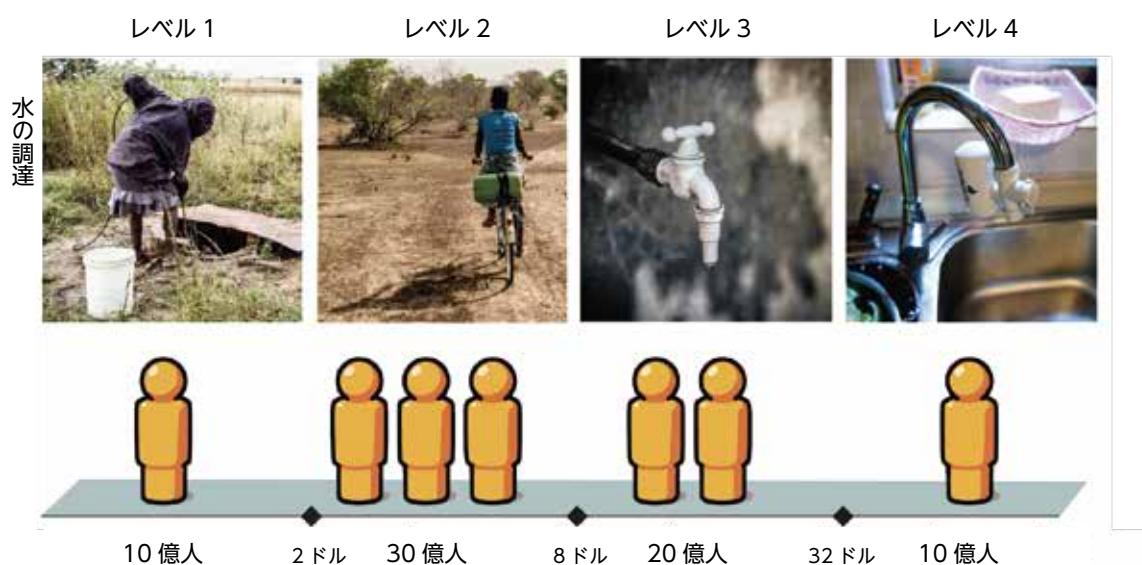
デンマークのテレビに出演したハンス・ロスリング

『ファクトフルネス』(p.38)の中でハンス・ロスリングは、デンマークのジャーナリストから受けたインタビューについて語っています。2015年に行われ、後に有名になったこのインタビューでは、世界は2つに分けることができるという考え方をロスリングが批判しました。可能であれば、本の該当する文章を生徒に読み聞かせ、YouTube上にあるインタビューを一緒に見てみましょう。ジャーナリストが語る世界の見方に対してロスリングがどのように反論したかについて、生徒に熟考してもらいましょう。ハンスはテーブルの上の果物を使って何を示そうとしているのでしょうか？

課題2：ドル・ストリート上の暮らし

レベル4の暮らしをしている人にとって、下のレベルに住む人たちの生活水準の違いを見分けるのは難しいかもしれません。みな同じくらい貧しく見えるでしょう。この「上からの景色」（『ファクトフルネス』 pp.56-57）について話し合い、レベルの違いによる生活の違いについて、具体的な例で説明しましょう（『ファクトフルネス』 pp.201-203、最後の見返し）。

例として、水の調達を選んでよいでしょう。レベル1の暮らしではきれいな水にアクセスできず、水を手に入れるために毎日何時間も費やします。せっかく手に入れた水でも、飲むと病気になるかもしれません。レベル2ではきれいな水にアクセスできますが、遠くまで水汲みに出かけなければならず、毎日水汲みに何時間もかかる場合もあります。レベル3になると、自宅や自宅近くにきれいな水が届くようになります。レベル4になれば、自宅できれいな水を異なる用途（飲料、掃除、温水、冷水）に使えます。



今回の課題では、4つのレベルの生活についてより詳しく学びます、と生徒に伝えましょう。そしてギャップマインダーのウェブサイト（gapminder.org）を使いながら、次のページにある課題を生徒にこなしてもらいましょう。世界中の何百人もの家族の暮らしがわかる写真を見ていきます。

お役立ち情報

アンナ・ロスリング・ロンランドのTEDトーク

アンナ・ロスリング・ロンランドは2017年のTEDトークで、ドル・ストリートについて語っています。講演のタイトルは「世帯収入ごとの世界の暮らしを覗いてみよう」で、ギャップマインダーのウェブサイト経由で見られます。約12分の講演ですが、要点だけ見たいなら6分37秒から見るとよいでしょう。講演の終わりにロスリング・ロンランドは、世界中の家族の写真を見せて、それぞれを比較することの重要性を強調しています。

課題の手順

- a. gapminder.orgにアクセスして、Dollar Street（ドル・ストリート）をクリックし、右端のメニューからQuick Guide（クイック・ガイド）を選び、クラスの皆で見てみましょう（訳注：日本語のURLはこちら：<https://www.gapminder.org/dollar-street?lng=ja>）
- b. 生徒をいくつかのグループに分け、それぞれのグループには同じ所得レベルの2つの家庭を見てもらいます。すべての所得レベルの家庭が均等に割り当てられるように、どの生徒がどの家庭を担当するかは、あなた（先生）が決めるとよいでしょう。
- c. **配布資料5**を配り、時間をかけて生徒に取り組んでもらいましょう。
- d. それぞれのグループに、以下の通り、担当した家庭について発表してもらいましょう。
 1. まず、レベル1に暮らす家庭を担当したグループと、レベル4に暮らす家庭を担当したグループから発表してもらいます。
 2. 最も裕福な家庭と、最も貧しい家庭の違いについて、時間を取って生徒に考えてもらいましょう。
 3. 続いて、レベル2に暮らす家庭を担当したグループと、レベル3に暮らす家庭を担当したグループに発表してもらいます。
 4. レベル2と3の暮らしについて、時間を取って生徒に考えてもらいましょう。ほとんどの人は、「金持ち」と「貧乏」の間に分断があると考えていますが、レベル2と3はその中間にあるのです。世界のほとんどの人は、この2つのレベルに暮らしていると生徒に伝えましょう。
 5. 最後に、それぞれのグループが担当した家庭の似ている部分・違う部分について生徒に話し合ってもらいましょう。

締めくくり

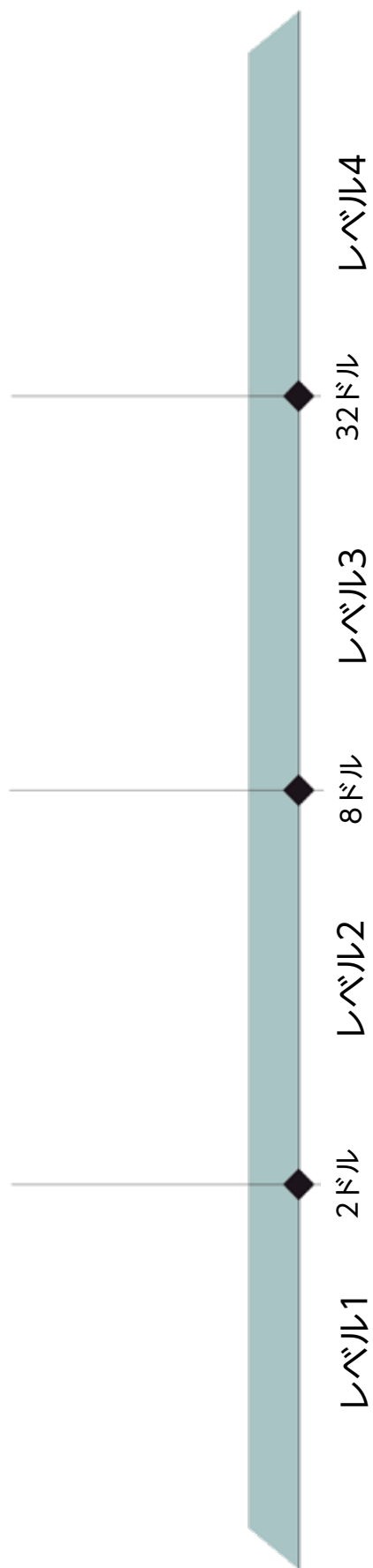
この課題の締めくくりには、『ファクトフルネス』第6章にあるパターン化本能についての話を紹介してもよいでしょう。ドル・ストリートを見れば、「国が違ってても所得の同じ人たちのあいだには驚くほどの共通点があり、国は同じでも所得が違えば暮らしぶりがまったく違う」（『ファクトフルネス』p.201）ことがわかります。たとえばレベル4にある家庭には、どこもほとんど同じような寝室、台所、居間があります。同じくレベル2の家庭では、世界中のどこであろうと食べ物を同じように貯蔵し、調理しています。

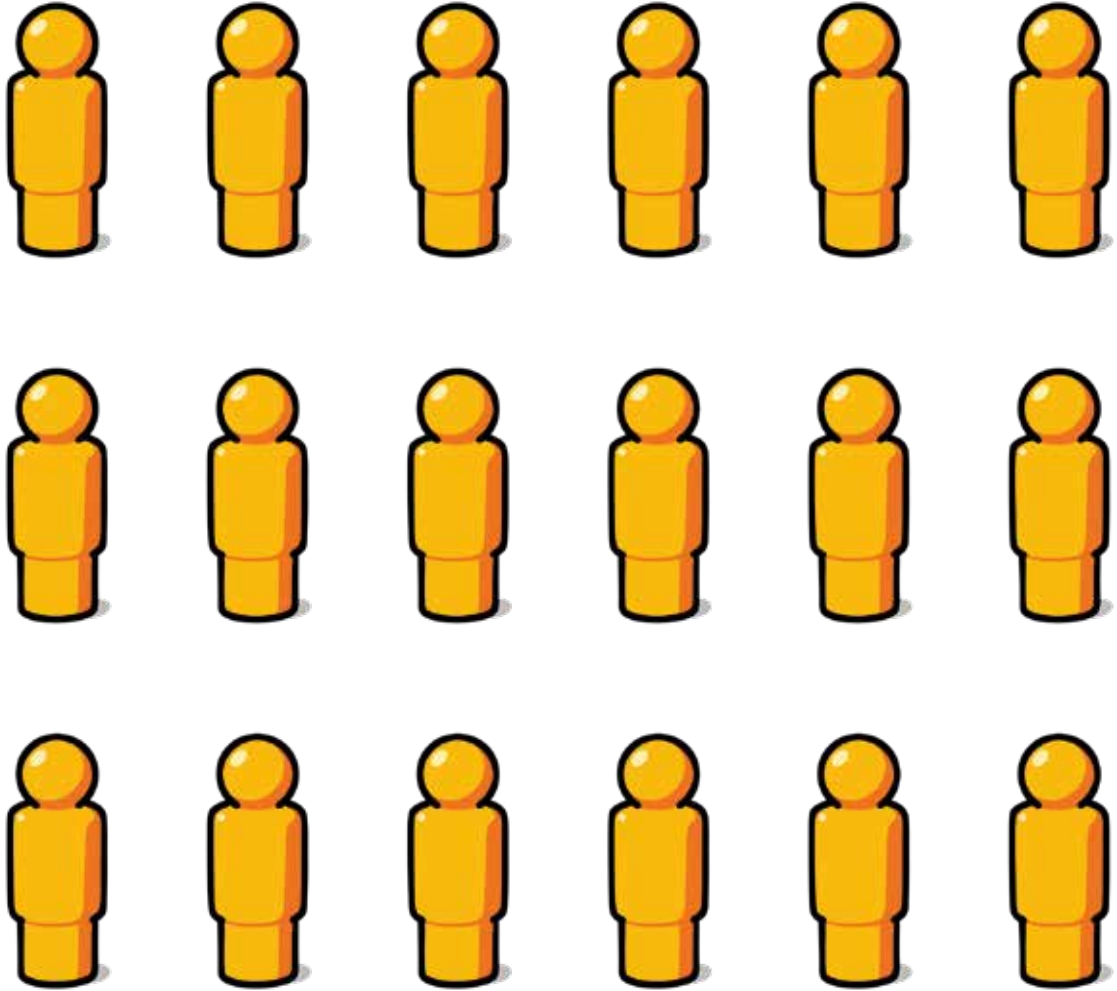
つまり、ドル・ストリートで見ることができる暮らしは、それぞれの国の典型的な暮らしを表しているのではなく、それぞれの所得レベルにおける典型的な暮らしを表しているのです。

このことを説明するために、ドル・ストリートで南アフリカ、中国、インドなどの国をクリックして、同じ国の中で所得レベルが違う家庭を見てみるのもいいでしょう。または、「アフリカ」をクリックし、アフリカ大陸の中でも多様な所得レベルの暮らしがあることを見てみるのもいいでしょう（『ファクトフルネス』pp.205-206）

まとめ

最後に、生徒が課題を終えて考えたことや感じたことについてクラスで話し合ってもらいましょう。各所得レベルにおける世界の人々の暮らしについて、理解が深まったと感じたかどうか、生徒に話し合ってもらいましょう。





配布資料 5

ドル・ストリートの課題

この家庭の名字はなんでしょう？

.....

住んでいる国はどこでしょう？

.....

1カ月の所得はどのくらいでしょう？

.....

所得レベルは1～4のうち、どれでしょう？

.....

どんな家庭か説明してください。

.....

.....

.....

どのように生計を立てているのでしょうか？

.....

.....

暮らしの中で、大変なことは何でしょう？

.....

.....

.....

その家庭で食べているものがわかる写真を1枚選び、簡単な説明を書いてみましょう。

どんなことを夢見ているでしょう？

その家庭の自宅の写真をいくつか選び、それぞれの写真に簡単な説明を書いてみましょう。

その家庭がどうやって水を手に入れているかがわかる写真をいくつか選び、それぞれの写真について簡単な説明を書いてみましょう。

その家庭で使われている子供のおもちゃがわかる写真を1枚選び、簡単な説明を書いてみましょう。

この家庭がいちばん大切にしている物の写真を選びましょう。それがわかる写真がない場合は、この家庭の持ち物の中で、この家庭にとって最も大事だとあなたが思うものの写真を選んでください。その写真について、簡単な説明を書いてみましょう。

This teacher's guide refers to freely available materials from Gapminder (www.gapminder.org) and is produced by Carl-Johan Markstedt (author) in collaboration with Mikael Arevius and Olof Gränström (educator at Gapminder).

If you want to learn more about our teaching materials or book a workshop for your organization, please contact lectures@gapminder.org.

info@nok.se

www.nok.se

Copyright © Carl-Johan Markstedt, Natur & Kultur, Gapminder Innehållet i Lärarhandledning till Factfulness är licensierad under Creative Commons licensen: CC BY, SA 4.0. Licensen innebär att du fritt får sprida, kopiera och bearbeta innehållet så länge du berättar att det kommer från Gapminder och Natur & Kultur. Illustrations and photos: Gapminder Graphic design: Conny Lindström

Förlaget Natur & Kultur är en stiftelse som utan ägare kan agera självständigt och långsiktigt. Vårt mål är att genom stöd, inspiration, utbildning och bildning verka för tolerans, humanism och demokrati.

日本語版については、ギャップマインダー財団の許可を得て、『FACTFULNESS』（ファクトフルネス）の発行元の日経BPが翻訳しました。

非売品